

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	097 -	事業名	保健衛生普及事業			担当部課	福祉部保険医療課	
基本情報	第5次総合計画・基本方針	—			会計区分	国民健康保険特別会計		
	まちづくり行程表・フラッグ	—			予算区分(款 - 項 - 目)			
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち			5-1-1 保健衛生普及費			
	法定受託事務の有無	—						
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 国民健康保険法						
	事業開始の背景、経緯等	国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。						
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。 ・糖尿病重症化予防事業 ・毎日コツコツ健康づくり教室 ・しっかり運動教室 ・医療費通知 ・後発医薬品差額通知 ・医療費分析業務委託						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民(国保被保険者)						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康づくりへの関心を高めて「行動変容」を促し、最期まで健康でいきいきと暮らせるようにする。						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 保健衛生普及事業	改善・見直し	④				
	②			⑤				
	③			⑥				
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	事業費(A)	千円	予算	4,614	7,228	6,217	6,428	8,090
			決算	4,216	6,598	3,765	4,811	
	人件費(B)	千円	決算	10,686	7,688	3,958	3,009	
	総コスト(A)+(B)	千円	決算	14,902	14,286	7,723	7,820	
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	A 生活習慣の改善意欲がある人の割合	%	目標	60.0	61.0	62.0	62.0	62.5
			実績	58.1	60.6	59.7	67.1	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 保健事業の実施効果を見るために、生活習慣の改善意欲(健診時)がある人の割合を成果指標とする。								
B								
C								
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。							
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 生活習慣の改善意欲がある人の割合が、平成30年度は前年度比で7.4%増加しており、運動や食事など生活習慣を改めようという人が増加傾向にある。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 健康づくり教室を毎月定例開催とすることで、参加者の日頃の運動の継続につながっている。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 日常的に健康づくりに取り組めるような仕掛けが必要。						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ポイント付与など、インセンティブ(行動を促す動機付け)制度の導入により、誰もが楽しみながら継続して健康づくりに取り組めるようにする。						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度中に、誰もが参加できる健康づくり(ウォーキング等)ポイント制度を導入する。						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

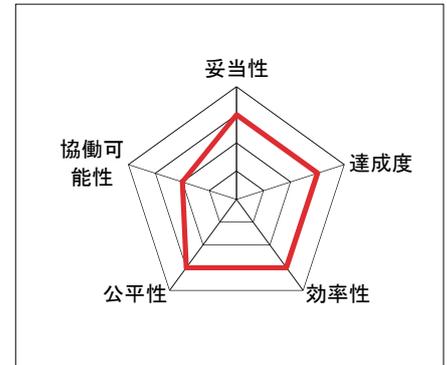
事業(A票)名	保健衛生普及事業		担当部課	福祉部保険医療課	決算書ページ	—
事務事業名	①	保健衛生普及事業	予算区分	5-1-1 保健衛生普及費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成28年度	終了(予定)年度	-		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ①元気高齢者を対象に健康増進のため、健康づくり教室を実施 ②糖尿病のリスク(血糖値)の高い被保険者を対象に保健師等による保健指導を実施 ③医療費分析業務委託により、健診・レセプト(医療・薬剤)データに基づく傾向分析を行った。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康づくりへの関心を高めて「行動変容」を促し、最期まで健康でいきいきと暮らせるようにする。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	2



2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	4,614	7,228	6,217	6,428	8,090
		決算	4,216	6,598	3,765	4,811	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 通信運搬費						1,389	千円
(2) 保健師事務賃金						911	千円
(3) 医療費通知作成委託						619	千円

【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	-	-	-	275
実績	-	-	-	-
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
健康づくり教室の準備や講師のサポートなど参加者による運営が少しずつできるようになってきている。				

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
参加登録数	人	見込	-	-	150	150	180
		実績	-	-	121	172	-
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
重症化予防事業：利用者23人(対象者68人) 毎日コツコツ健康づくり教室 11回(5~3月)参加登録数103人 しっかり運動教室 11回(5~3月)参加登録数69人							

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
健康づくり教室は、誰もが気軽に参加できるプログラム構成となっていること、講師である健康運動指導士のたくみな話術により、参加者から好評価を受けている。月2回の教室が外出し、いろんな人とおしゃべりして元気になる機会となっている。今後も続けてほしい、もっと回数を増やしてほしいとの声が多く寄せられている。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
ウォーキングポイント等を導入し、年齢問わず誰もが気軽に運動を始められ、継続できる仕組みを構築する。 高齢者だけでなく、若年世代の参加を促すため、子ども向けイベントプログラムを実施し、親子で楽しみながら運動できるよう仕掛ける。
健診・医療・服薬情報データ分析により重複服薬者を抽出し、服薬情報通知や薬剤師による講座を実施する。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
6,428 千円	8,090 千円	1,662 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	改善・見直し	
・前年度【コメント】		
糖尿病重症化予防事業として、集団ではなく個別指導を行う。参加者の体力(意欲)に合わせたプログラム構成の教室を開催する。		
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
糖尿病重症化予防事業では、個別に食事・運動指導を行った結果、個々の状況に合わせた効果的な指導を行うことができた。健康づくり教室では、体力レベルを分けることで、参加しやすくなり、外出・運動のきっかけを提供することができた。		

7. 今後の方向性

改善・見直し